

鐵 と

鋼 第四年 第壹號

大正七年一月二十五日發行

新年を迎へ我製鐵業の彌増隆盛ならんことを望む

野 呂 景 義

大正六年は我か製鐵業の最も多忙なる年であつて、各工場共實に著大の發達を遂げ以て國家に對し偉大なる功を奏したるは余輩か喜悅に堪へぬ所である、然れは何れの工場か何程の進歩を爲し何程の産額を増したかと云ふに余は今や温泉場に遊び居りて何等の取調も出來されは是は來る總會に於て報告することゝし、唯た一二の例を舉ぐれば余は近時多忙の爲め諸工場を見察するの暇なかりしか近頃久し振にて日本鋼管株式會社を訪れたるに何時の間にか二臺の平爐は六臺に増加せられ、各々煙突より盛に白煙を吐出し工場内の活動亦た極めて旺盛なるを見て一層の感喜を覺へたり、聞く所に據れば本年の製鋼豫定は十二萬噸餘なりと。次に昨年十一月の頃大阪の住友鑄鋼所を覗きたるに是れ亦豫想外の發達を遂げ居りて工場は寸地を餘さす一杯に車輪、造船材等の鑄造品を以て愼充せられ、仕上に追はれて閉口し居ると云ふ全盛を極めたる有様であつた。又た北海道の室蘭製鋼所の本年度製鋼高は八萬噸餘なりとの報知を同所長より得た。前二三の例に據て見れば其他の製鐵所も屹度長足の進歩を爲しつゝあるとは推測に難からざる所である、然れ共事實に照らし未だ余輩か満足の意を表することの出來ないのは新設計畫並に既設工場の擴張に依り今日迄に支出されたる金額は已に巨大の額に達して居るにも拘らず、生産能力か之に伴はざるの一事である。

其原因は新設會社か拂込を爲しなから事業の着手に躊躇して居るとか其他種々なる事情のある

となれ共、表面に露はれて居る大要は(一)所用機械及材料供給並に職工の不足(二)製鐵原料の不足(三)物價の騰貴(四)將來に於ける製品の市價變動を慮り工事進捗の躊躇(五)製鐵事業の保護方策の不完備等にあるものゝ如くなれば、是等諸問題の解法に付極く簡単に聊か茲に愚見を吐露して見ようと思ふ。製鐵用の機械及材料例は鐵板の如(一)の供給が不充分であるのは言ふ迄もなく、主に米國か輸出を禁止したるに依ると雖も亦た我造船業の急激なる發展に伴ふ需用の増加の然らしむる所であるから其需用高を調節し、造船の方丈無闇に進行するも肝心の鐵材が無くては仕方なき故兩業相併進するの途を講ずるのか得策であらうと信せらる。今假に一萬噸の商船一艘の建造を中止せんか其材料及職工と其費用を以て既に年産額五萬噸内外の一製鐵工場を新設し得べく、五萬噸の鐵材は能く一萬噸の船十艘以上の建造材料を供給すべき勘定なれば當局者たるもの宜しく茲に注目して可なり殊に製鐵用機械に付き政府に向て望む所は、陸海軍其他官立工場を利用し民業者に援助を與ふるのてある。職工の不足も亦た大に造船數の激増に原因するものなれば前述と同様の方法に依て調和を謀るべきである。要するに製鐵業は實に萬業の基にして鐵材の自給獨立策を樹ることは目下急務中の急務なれば造船業者は宜しく製鐵業を補助するか若くは、三菱、淺野造船所等の如く自から製鐵業を營み以て自給の方策を立てるは極めて策の得たるものと愚考せらる。

製鐵原料に付ては製鋼業者は銑及古鐵の不足を訴へ製銑業を起さんとする者は鐵鑛の供給に苦しむと云ふ状態であり、畢竟するに鑛石の供給が豊富であれば夫れにて足る勘定なり。世人の多くは内地の鐵鑛を悲觀し支那其他海外より之を求むるの外他に途なきか如くに思ひ居るも、余輩は其然らざるを信するものにて相當の代價を拂へば内地に於ても隨分多量の鑛石を得ると敢て難きに非らざるへし、兎にも角にも本邦製鐵業の獨立を謀る上に於ても亦た外品を容易に輸入する政略の上に於ても縱へ一時は高價を拂ふも、先づ幾分内地の鑛石を基礎として鐵材自給の策を樹立するの

必要がある而て此策を行ふには目下か最も都合能き時機である、其所以は今日は銑價か非常に騰貴し居るか故に製銑業者は鑛石は何程不廉なるも更に若情を訴ふるの理由かない、例へは戦前八幡製鐵所に於て鐵鑛一噸の購買價格は平均六圓内外にて當時銑一噸の市價か三十五圓位であつたか故に鑛石の代價は銑の六分の一位に相當して居る、然るに現今の銑價は三百圓以上なれば鑛石一噸に付ては三百圓の六分の一即ち五十圓を支拂ふも苦痛なき道理である、尤も此論は少し極端に走る嫌はあれと實際現時の銑價にては鑛石一噸に四五十圓を拂ふも製銑業者は尙ほ相當の利益を收むへき餘地あるものと考へらる。鑛石の不足を訴ふるものは蓋し廉價即ち一噸十圓内外若くは夫れ以下にて購入せんと欲するが故なるへし、尤も今日の如き銑價か永續すべきとは思考せられざるも今暫く百五十圓を下る様の恐は是れあるへからされは官業を始め民業者も鑛石に對し餘りに儉吝ならず、大に奮發して一噸二十圓か二十五圓位にて購入するに於ては内地の鐵鑛業は忽にして發達し將來に於ける鐵鑛供給の基礎を鞏固ならしむるに至るへきは余輩の信して疑はざる所である。尙ほ鐵鑛の發展策に付き一言すれば政府は此際特に此方面に向て獎勵するの目的を以て現行製鐵業獎勵法を改正し生産額の制限を廢するのみならず殊更に山間に於ける小製鐵業を保護獎勵して以て其發展を誘致すべきなり、素より製鐵業の如きは其模樹の大なることを望むは云ふ迄もなきことなれと内地鐵鑛の發見及採掘を促進せんには小鑛業を獎勵するのか最も適切なる良策であることを忘るへからず。

物價の騰貴殊に石炭價格の向上は獨り製鐵業のみに止まらず一般の産業に大なる影響を及し而して其原因を尋ぬるに一は通貨の膨脹にあるへきも、石炭に於ては主に運賃の非常なる騰貴に因るものにして運送業者殊に船舶業者か果して斯く法外なる値上をせねはならんかと云ふに余輩は其然らざるを信せんとするものである、其所以は各船舶會社か近時古今未曾有の高率なる配當を爲す

を見ても明かなれば政府は宜しく之を調節し、先づ其根源たる船賃より値下を始め漸次に他に及ぼさんことを希望す、尤も製鋼業者も一般の物價騰貴に伴れ大なる利益を收得しつゝあるも新に業を起さんとする者には物價の騰貴は甚しき惡影響を及ぼすか故に爲政者たるものは區々たる情實に捕はるゝことなく斷乎たる處分を行ふの要ありと信せらる。

新に製鐵業を企畫する者及既設の業を擴張せんと欲する者か活然猛進せんとするの勇氣を阻害されつゝあるの傾向あるは甚た遺憾なり、其原因は戰後に於て資本に對し相當の利益あるやを心配するものゝ如し。今日業を創めんとせば物價高値の爲め非常に高き起業費を要し一ヶ年鐵鑛より鋼材每一噸を製造するに其設備に二百圓内外の資金を要するを以て資金に對し純益一割を得んとせば製品一噸に付二十圓を得ざるへからず、現時に於ては此の如き收益は易々たるも今日の好況か永く持續すべきものにも非らずして戰後に來るへき大競争に際し猶ほ相當の利益を收め得べきや否やは甚た疑はし、然れば此好況中に資金の相當額を回收し得べきやと云ふに是れ亦た確乎たる見込の立たざる問題なるか故に當業の進退に躊躇するは決して無理ならず、然れば此難事を解決するに安全なる手段は唯た一あるのみ、即ち政府に於て我製鐵業の將來に對し此際斷乎たる保證を與ふるのてある而して其保證とは云ふ迄もなく保護關稅を除き他に良策のある手筈なし。

前に述るか如く我製鐵業は此好機に際し完全なる發達を遂げ得ざるの一大原因は其保護獎勵法の不備なるにあることは明瞭なる事實なれば、爲政者に而て此際斷乎たる所置を施し後日の憂なからしめんことを望むと同時に製鐵業者にも奮發一番快進の勇氣を望み殊に新に創立せられたる大小各會社に向て奮起を促かすは敢て無理なる注文にあらざるへしと信せらる。

尙ほ終に臨み一言加へ置くへきは鐵材の自給策に付ては造船協會の主催により本會并に造船協會、機械學會、電氣學會、建築學會及火兵學會より各々若干名の委員を撰出し聯合會なるものを組織し

數回會合調査の結果一の覺書を調製し之を總理大臣に提出すると同時に余輩數名同大臣を訪問し意見を陳述し置きたるも、未だ具體的結果を見るに到らず此事に關しては多分其月の會誌に於て其顛末を會員諸君に報告することを得へきかと思はるゝ(終)

所謂鐵鑛問題

西澤 公雄

米國鐵禁輸問題の發生するや朝野戰兢震懾一大恐慌を惹起し殊に造船家の周章狼狽は殆んど其極度に達するを見たり、予は十數年前より製鐵積極論者にして力の許す限り此事業の擴張を切望し既に業に幾度か當局に進言し又江湖に訴へしも、如何せん眼前直接其吃緊を感ぜざる事業の性質として世人の注意を喚起すること至尠なりしか、歐洲戰の勃發以來漸く社會を覺醒し製鐵は國家存立の基礎として一意之れか發展を策するもの日に多を加ふるに至れり、實に朝野同音疾聲大呼未曾有に鐵業を尊重する今日の狀況をして今十數年否六七年早からしめんならば、歐洲戰爭の影響も之れ無かるべく米國鐵禁輸案も却て各國生存競争の結果なりとして左まで我國民を刺激せざりしならん、米國との交渉は豫想の通り兩者の意見懸殊し遂に中止するの不得已に至れり於此我國人は鐵の自給問題に就て極力突進するの臍を固め、恰も予の十數年前の意見と一致を見たるは轉た今昔の感なくんはあらず、吾人は當に自製自給策を提て飽までも前進するにあり之を必成するに餘力を殘さるへし斯くして國家を泰山の安に置くべく列國の虛曷威脅も遂に其及す所なかるへきなり、製鐵の基礎を確立する第一の要素は鐵鑛にして之れ無くんは如何に國民熱血を灑くも果た辛酸若楚を